図書館だより　ブックフォレスト　第15号　No.2

BOOK　FOREST

令和３年12月２日(木)
大津中学校図書館
文責:宮野　薫

PTA 母親委員　おすすめの本紹介！続きます

BOOK

中学生の頃は図書だよりに紹介されている本をたまに読んでいました。
楽しみに読んでいたのは新聞です。国語の教科書を読むのが好きで、兄弟から借りて読んだりもしていました。
子育てを通して多くの絵本にも出逢い、たくさん好きな本がありますが、中でも『だいじょうぶ　だいじょうぶ』『でっかいでっかいモヤモヤ袋』『ひとりぼっちのアヒル』『ぼくとかあさん』は、中学生でもストーリーにさりげなく触れる機会があってもいいかな、と思います。

BOOK

『コミック版　日本の歴史』すぎたとおる（ポプラ社）

小学校高学年以上向けのようですが、社会の歴史が少し苦手な人にはすごく分かりやすいと思います。歴史上の人物を何十人も知ることが出来、つながりを理解しやすいです。

BOOK

『たいせつなこと』マーガレット・ワイズ・ブラウン（フレーベル館）

「自分を大切にしてほしい」「自分を好きでいてほしい」自分を傷つけたり、おとしめたりする言動はせず、大切にしてほしいです。自分を認めてほしいです。自分を大切にできれば、他の人をむやみに傷つけたりせず、周りを思いやることができ、慈しむことができます。

BOOK

「図書館戦争」シリーズ、有川浩（角川書店）

「公序良俗を乱し、人権を侵害するメディアを取り締まる法律」がある世界の話です。恋愛の話でもあるんですが、検閲が合法化されているという、現代では有り得ない状況だけど「有り得そう」な内容の話です。

BOOK

『クラスメイツ』森絵都（偕成社）

クラスメイトがみんなささいなことで悩んだり傷ついたり、自分に似た誰かに共感したり友だちを思い浮かべたりしながら読んでしまうと思います。同じ出来事も、誰かと誰かでは全く違う見方をしていたりする、そんな気付きも心を軽くしてくれそうな本だと思います。

BOOK

「5秒後に意外な結末」シリーズ、 桃戸ハル （学研プラス）

長女が全シリーズを過去に読んでいて、おすすめできる本だと聞きました「5秒」で読める短編集なので、本が苦手な人が読むのにも向いているようです。

BOOK

『えんとつ町のプペル』にしのあきひろ （幻冬舎）

表紙からとてもきれいで、読んでみようかな～と思わせてくれる絵本でした。内容もプペルの信じる気持ちが大事だという思いにラストでの出来事・・・涙が止まらないステキな一冊です。

BOOK

『おおきな木』シェル・シルヴァスタイン （あすなろ書房）

小学校の読み聞かせで読みました。色んな人が同じ本を読んでいましたが、何度聞いてもおもしろいと言ってもらえた本です。木の形が次々と変わっていきおもしろい！という人もいれば、悲しい本だと感想を持った人もいました。時が経って読むとまた違った気持ちになるかもしれません。

BOOK

『なぜ僕らは働くのか』池上彰 （学研）

これから大人へと成長していく中学生にはピッタリな本だと思います。

BOOK

『14歳の君へ』池田晶子 （毎日新聞社）

色々と悩む時期の子ども達へ、色々な考え方があることを知って欲しいと思います。

BOOK

『凡事徹底』井芹貴史 （内外出版社）

大津中のすぐ近くにある大津高校でサッカーを指導されていた先生の話です。大津高校はあまりにも中学校の近くにある為、魅力を感じない部分が子どもたちにはあるかもしれません。この本を読んだら、身近にもステキな高校があることを知ってもらえるのではないかと思い、おすすめしました。

BOOK

『十五歳の絶唱』若城希伊子 （秋元書房）※

この本は、私が中学生の頃、古本屋さんで買って読んだ本です。中学2年生だった女の子が「骨肉腫」という病魔に襲われ15歳という若さで命を閉じたお話です。最後まで「治るんだ！」と諦めず頑張る姿に感動しました。今では、同じ15歳の子を持つ母となりましたが、命の尊さを改めて考えさせられます。

今回紹介した本は、※の本以外は大津中図書館にあります。ぜひ読んでみてください。「母親委員おすすめの本」はまだまだありますので、また次回ご紹介します。お楽しみに！